とを、腰かけの下に入れる事になつて居る。ながく乘つて居る汽車では、實にきたない、豚の樣な狀態である。折々ボーイが、水をまいて箒ではく、土埃はまい上る、まことにきたなく、不快であり、不衞生だ。何とか改良のできないものか。たとえばかごでもおいて、ごみはそれに入れ、一定の停車場で、からのかごと取りかえる樣にでもしたらいゝでないか。汽車は外國から學んで作つたものだから、外國でも同樣だらうか、それともごみの始末だけは、學ばなかつたものか。私は外國歸りの人に尋ねても見るが、明瞭でない、當局の人が考えて居ない事はないと思うが、まだ名案がないのか、何にしても不愉快な不面目である。こんな未開の風は、一日もはやく、改めなくてはならぬ。

臺灣見聞記

××新聞記者　加藤主計

四

塀東は流石に亞熱帶圏にあるだけに南國氣分が旺溢し、椰子とか、檳榔子とか云ふ熱帶植物が多く、初めて南國へ來たやうな氣がした。しかし何を云つても暑いのは閉口で太陽の光はヂリ〳〵と燒きつくやうに照りつける、油汗は全身に流れる、全く燒熱地獄である。それでも見ると云ふ慾の皮がつつぱつて居るものだから暑さを我慢して少し許り街を見て歩いた。

街と云つて製糖會社のお蔭で出來てるやうなものだから勿論取り立てゝ見るべきものはない。只暑い中を少々歩き廻つたから、此處で一寸市場のことを書いて置かう。

驛から二丁許りの所に市場がある、多分街の中心になつて居るのだらう――バラック建ての半永久的建物である、野菜、乾物、魚、獸肉等主として食料品店が多く、隣接して製氷會社があり、よく利用されて居るらしい。更にそのバラックに續いて廣場があり、その廣場には一ぱいに露天店が張られて居る。曰く氷屋、蕎麥屋、團子、饅頭のやうなものを賣る店、さては燒鳥、豚の腸詰め――と數へ立てれば際限がない、苟も口に入るものなら何んでも賣つて居る、謂はゞ食傷市場である。勞働者は空腹になると此處へ來て腹を滿たすのだそうだ。だからその盛んなこと、內地に於ける緣日の連續のやうなものである。

臺灣ではどんな街へ行つても必ず市場がある、多分舊い頃からあるのだらう。又それに續いて必ず食傷市場がある。臺北にもある。淡水もそうであつた。元來臺灣の勞働者には一定の食事時間がなく、空腹になれば近くの露店で腹を滿たす、だから到る所に露店飲食屋があるのだそうだ。それにしても一食が大抵五錢乃至十錢と云ふのだから生活程度も大體想像が出來る、勞働者の勞銀は一日五六十錢位から最上の部で一圓二三十錢のやうだ。

塀東より南へ二十里餘にして臺灣の最南端に達するのであるが、汽車は僅かに四五里位、アト十七里許りは自動車や馬を利用して行かねばならぬ、從つて內地人でそこ迄行く人は極めて少ないそうである。自分も不幸にして日程が短かかつたので行くことが出來なかつた最南端に鵞鑾鼻燈臺と云ふのがある。東洋第一と稱せられ高さ五丈九尺、海面を拔く十八丈、壘壁の周圍は一丁に餘る大燈臺で、光緒八年（明治十五年）中に清國政府に依つて建設されたものだそうだ。何んでも明治の初頃、米國の一汽船が暴風雨の爲、東南岸の暗礁に乘り上げ沈沒するや、船員は辛うじて附近の蕃地に上陸したが、蕃人の爲屢殺された。依つて米國は軍艦二隻を向け、討伐に當らしめたが何等の効もなく其後米清兩國政府交涉の結果、近海の危險を除くと云ふ趣意のものに出來たものだそうだ。そうでもなければこんな立派なものは出來なかつたらう。

塀東を引上げて高雄へ寄つたが此處は南部に於ける貿易港と云ふだけで大して珍らしいものもない。それよりも高雄と塀東との間に鳳山と云ふ所がある。パインアップルの產地として有名で、鑵詰の大部分は此處で出來る。パインアップルの栽培を見た諸君は知つて居られるだらうが、おもとを大きくしたやうな草に結實する、外國種は畑で育つが臺灣の在來種は想思樹と云ふ內地の柳によく似た木の下でなければ育たぬ。想思樹と云ふハイカラな木の下でなければ育たぬと云ふのだから面白い。偶然とは云ひ乍らあの甘たるい、そして何んとも云へぬ味を持つたパインアップルが想思樹の下でなければ育たぬとは餘りうまく當篏り過ぎてシャレも出ない。モダンボーイ、モダンガール連よ大いに賞美し給へ、幸運を招くこと請合ひだ。所がこの想思樹の下で育つた我愛するパインアップル君、親の敎育が惡いのか、質が餘りよくなく、食べた後で舌を刺し、口の中が痛痒くなる、何處迄も皮肉だ。

五

高雄から臺南を素通りしてその夜は嘉義に一泊した、阿里山へ上るには是非共此處へ泊らねば都合が惡い。南部に於ける初めての宿である、着いたのは九時頃であつたがとても暑くて寢られない。旋風機をかけてくれたが生暖ひ風が來る許りで何等の效果もなく、眠られぬ儘に疲れては居たが、街をブラ〳〵して見た。

嘉義は阿里山鐵道が出來、木材を搬出するやうになつてから出來た街である。だから街路なども廣く、なか〳〵立派に出來て居る、勿論鋪裝などはしてある譯ではないが此處も高速度の運搬車が殆んど通らぬので道路を毀すことがない。高雄のことは前に何も書かなかつたが矢張り嘉義などと同じく鋪裝はしてないが凹凸が少なく氣持ちの良い道路である。

翌朝六時に阿里山行きの汽車に乘つた。この鐵道は營林所の經營で、木材運搬が主となつて居る、だから汽車と云

ふものゝ木材運搬車に客車を一輛連結したゞけで、途中の乘降客も合せて三四十人しか乘つて居らぬ。兎も角僅か四十哩許りの所を九時間もかゝり、しかも八千尺の高所に達すると云ふのだから一寸珍らしい鐵道である。營林所の經營だけに乘車券も旅客運賃ではなく、手數料と稱して實費を支拂ふことになつて居る。從つて切符の裏には『途中如何なる事故が發生してもその責に任ぜず』と云ふやうなことが書いてあり、その上警察から入蠻許可證を貰つて來なければ賣らぬと云ふのだから、早くも何事か起るのではないかと云ふやうな疑念が起り、心細くなつた。

汽車は驛を出ると間もなく上りになつたが約七八哩の竹崎と云ふ所迄は緩勾配で汽車も相當の速力で走る。それからが難所で、山腹を縫つては上るのだが、中でも獨立山のスパイラル線と云ふのが一番面白い。獨立山と云ふのはその名の如く一個の獨立した山で一方だけが他の山に續いて居る、で汽車はその山腹を螺旋のやうにくる〳〵と三回半廻つて續いて居る他の山の方へ移るのだが、山と山と繫つて居る所は隧道になつて居る。一番下の隧道が一番長く上のが短くなつて居るがこれは二つ摺鉢を逆にして考へれば直ぐ想像がつく。從つて上下こそ異なれ、同じ所を三回通る譯で、速力は東京の市内電車よりズツト遲い。こんな話がある、汽車には便所がないので獨立山の下の驛で用便に降りる。汽車は出てしまう。平氣でやり過して置いて、山路を上ると次の線路へ達する、そこで汽車を待つて居て飛び乘るのだそうだ。これは單に獨立山のみではなく、螺旋形にこそなつて居らぬが、こうした所が至る所にある。それから橋と隧道が非常に多く、橋は全部木橋でその上眞直ぐな橋は殆んどない、何れも灣曲をして居る。隧道の數は八十幾つあるが煉瓦を積み上げたものなどは極めて少なく木桁で支へてある。

汽車はどん〳〵急勾配を上つて行く、一驛を越す毎に凉味を增し、丁度中程にある奮起湖と云ふ所に達したときは脫いで居た上衣を著なければ寒い位になつた。高さは四千五百尺餘だから輕井澤より餘程高い。奮起湖はこの線の中

間驛で一番多く日本人が住んで居る所だと聞いたが、停車場には煙草やサイダーを賣る店が一軒あり、中間驛中唯一の驛らしい驛である。

親み深かそうな婦人が五六人子供を抱いたり、手を引いたりして線路の傍に立つて居る、この婦人達はこの驛、又は附近で働く人々の家族で、何れも淋しさに堪へ兼ね、一日一回だけ通るこの汽車の來るのを待ちあぐみ、そして見馴れぬ内地人の顏を見ては、親みを感じ、内地のことを思い出しては、自ら慰めて居るのだそうだ。私はこれを聞いたとき、遠く内地を離れ、しかもこの山の中で、僅かな人々と共に生活して居る彼女達の心情を想い、涙ぐましい感じがした。

客車の行く最終の驛、沼の平に着いたのは午後三時であつた、宿へ着くと女將が炭火を火鉢につぎ、どてらに浴形を合せたのを持つて來てくれる、馬鹿々々しく思つたが着て見ると丁度良い、寒暖計を見ると六十八度だ、椽に出て邊りを眺めると、白雲の上へ頭を突き出した、毛疊たる山嶺の姿のみである、高さは七千五百尺餘、時々時雨がやつて來る、又直ぐ晴れる、何んとも云へぬ山嶽氣分だ。女將を相手に『寒いですなァ』と云へば『いゝエ今年はいつになく暖かくて山の上でも蚊が出そうだなどと云つて居るのですよ』と笑ふ。山の上とは阿里山の伐木場のことで沼の平より更に四五哩の所にあり、鐵道の終點で高さは八千尺を越して居る。酷熱の苦しみが僅か九時間にしてどてら炭火の世界に變るのだから驚くの外ない。沼の平には小學校があり百二十人許りの生徒が居る、その内三十人許りは寄宿舍生活をして居る、寄宿生は何れも中間小驛に生活して居る人々の子供達で、嘉義へ下りるよりも近いものが此處へ來るのだそうだが、僅か七八歳の小兒が父母の膝下を離れ、この山上の寄宿舍に收容されるのかと、思ふと又涙が出た。

その夜毛布にくるまり、厚い布團をかけて寢たが、それでも明け方には寒かつた、溫度は五十七度、東京で云へば丁度十月頃の氣候である。

六

午前八時沼の平を出て嘉義へ下りたが、途中蠻刀を下げた蠻人に出會つたのが珍らしかつた。嘉義では製材所と農事試驗場を見たが、製材所の方は內地では見られぬ大仕掛けのものであると云ふことだけに止め、試驗場で聞いた話を一寸書かう。

伊藤總督唯一の功蹟だと云はれて居る蓬萊米卽ち內他米の移殖は未だ試驗期にあり、二毛作中の前作は內地と略同じ氣候の時分に植へられるので成績は頗る良好だが、後作は暑さのさかりで、常に水不足を來し餘り思はしくはない。だから一般農家は前作に蓬萊米を作り、後作は臺灣米を作る。しかし今後苗の研究が進み、灌漑排水等の設備を施せば完全に二毛作が出來るだらうと云つて居る、尙臺灣には生果の種類が四十餘種あり、試驗場では外國種の栽培について研究中だが、酸味の强いバナナや二週間位長持ちするパインアップルなども遠からず、東京人の口に入るやうにならう。

ついでにバナナのことを一寸書くが、主產地は臺中州で全島生產高の八割强を占めて居る、杷蕉の木一本に平均三十斤位、一房に重り合つて實る、一度實るとすぐ切り倒すそうすると翌年又同じ位の高さに延びて實を結ぶのだそうだ。生產高は三億五千萬斤內外で價格にして二千萬圓位に上るそうだ。

嘉義を引上げてから更に角板山と云ふ蕃地へ行く豫定だつたが、阿里山の氣候の激變からすつかり腹をこはしてしまひ、折角の蕃地見學も出來ず、その儘臺北へ歸つた。

臺灣に蛇の多いことは御承知のことゝ思ふが、毒蛇だけでも五種類あり、中でも臺灣ハブと云ふやつは頗る猛烈で棒で突くと、頭を杓子のやうに曲げヒュー〳〵と唸つて飛びついて來る。所で最近蛇の利用が旺んになり、皮は臺口やステッキとなり、身は强壯劑として藥の中に混入されると云ふのだから恐ろしい、更に又脫け殼は髮結さんが油の中へ入れて使ふとかで內地へどし〳〵と運ばれる東京のあ

る有名な髮結さんもその一人だそうだその髮結さんに結つて貰つた女はさぞ執念深からう。

斯くして短時日の臺灣旅行を終つた譯だが最後に賣淫以外の男女關係のことを少し書いて本稿を終ることにしやう。先づ結婚制度だが男が、女を買ふのである、その金は聘金と稱して高い程自慢になる、安いのは五十圓百圓高いのになると五千圓一萬圓する。お互が金持同志でも聘金を支拂ふ。女學校卒業生などはなか〳〵値が高い。最近のことだが、內地の醫科大學を卒業し臺北醫專の教授をして居る某醫學博士が良緣あつて結婚しやうとした。內地で勉強した人だから勿論聘金などは出さず內地並みに結婚しやうとした所、先方では聘金を出さねば娘をやらぬと頑張つてどうしても承知しない。一年間すつたもんだで交渉したが結局舊慣には勝てず三千圓の聘金を支拂つて結婚したとのことである。

斯の如く結婚制度が賣買結婚であるから妾を蓄へることなどは金持ちの公然たる特權である、貧乏人は蓄妾の出來ぬ代りに、自分の妻が嫌になると賣り飛ばしてしまう。從つて姦通が多く、そんなものが罪になるとは知らぬから夫が妻の姦通を知つても平然として居る。所が最近姦通が罰せられると云ふことを知るやうになつてから告訴するものが多くなつて來た。しかし彼等は罰するのが目的で告訴するのではなく、告訴して相手を脅迫し、妻を高く賣りつけやうとするのだから、これには裁判所も閉口して居るそうだ。

まだ書けばいくらでもあるが際限がなく、又面白いこともないからこの邊でやめて置く。

× × × × × × ×